

第42回中兵庫少年剣道大会

志染勢活躍 照井葉生が優勝

中西涼風が3位 低学年女子個人戦

5月25日(日)、三田市駒ヶ谷運動公園体育館で「第42回中兵庫少年剣道大会」が開催され、北播磨5市1町、神戸市西区、丹波市、三田市から約70チーム400人の小中学生が参加して熱戦が繰り広げられた。

わが三木市からは、個人戦女子に低学年3人、高学年7人、中学生2人、小学生団体に、自由、三木中央、志染、緑が丘A・B、剣修会、吉川の7チーム、中学生団体に、三木中央、別所、志染、吉川A・Bの5チームが参加した。女子個人戦では、低学年の部で志染の照井葉生、中西涼風が予選

の1本勝ちを収め、同士の雪辱を果たして優勝を決めた。同じく3位には準決勝で照井に敗れた田代華夢(小野柳心館)が入り、入賞をこの2教室が占めた。

女子高学年の部に出場した三木市7名の選手のうち、予選リーグを突破したのは、増田(緑が丘)と山田(吉川)の2人のみで、両者決勝トーナメント第1戦で、増田は藤津(己勝館)に、山田は仲島(春日台)に敗れ、三木勢と他市町のチームとの力の差が現れる残念な結果となった。

また、三木中央から加村仁奈、吉川から三藤暢子が出場した中学生女子個人の部は、加村が初戦敗退、三藤は3回戦まで進み、ベスト8どまりであった。

三木勢無念、団体小学生の部

三木から5チームが出場した小学生団体の部では、吉川、志染、緑が丘Aが予選リーグを突破したが、決勝トーナメント第1戦で志染は神戸市西区の己勝館Aに完敗。吉川は丹波市の高志会Aに破れた。決勝トーナメント第1戦、小野市柳心館Bを破った縁が丘Aだった

破った己勝館に敗れベスト8どまり、三木勢は各チームとも選手層が薄い上に繰り出す技も単調で、強敵の前に無念の涙をのんだ。

優勝チームは、6年生が1人ながら勝ち上がった西区の春日台で28回大会に次いで14年ぶりの快挙。全員6年生でそろえた加西市の北条Aが初の準優勝、3連覇を目指した己勝館Aと昨年準優勝の柳心館Aは3位に沈んだ。

中学生団体で吉川が実力発揮 3位入賞

三木から5チームが出場した中学生団体の部で独り気を吐いたのは過去第38、39、41回大会で優勝している吉川チームで、先鋒橋間祐生、中堅岡坂蓮、大将石原が実力通りの戦いを見せ順調に予選リーグを突破、トーナメント戦第1戦対船城B(丹波市)、第2戦高志会A(丹波市)に勝利して準決勝に駒を進めた。対する相手は2年ぶりの優勝を狙う己勝館A。吉川は善戦及ばず破れ、3位にとどまった。己勝館Aは、吉川戦の勢いそのまま、決勝でも強敵春日台Aを破って優勝した。

春日台に敗れた柳心館Bが吉川と並んで3位。

残る三木勢4チームは、すべて予選リーグすら突破できず、中学生の選手強化が遅々として進まない三木市の現実が露呈した結果となった。

(報告 澤田 薫)

合格目指し31人が挑戦 第104回級位認定 審査会開催される

「木刀による剣道基本技稽古法が審査対象に」

6月1日、第104回三木市剣道連盟の級位認定審査会が、三木コミュニティスポーツセンターにおいて開催されました。

三木市剣道連盟高橋会長より、開会の挨拶があった後に審査が始まりました。

この審査会からは「木刀による剣道基本技稽古法」の審査を2級3級において実施されました。昨年まで各教室の指導者に対しての稽古会に熱心に参加いただき、そして子どもたちへの指導が十分になされた成果がよく現れていました。

剣道の実技審査においても、先生方からの教えを守り、受審者数31名(2級9名、3級7名、4級5名5級10名)が見事全員合格されました。

(報告 小林 哲也)



女子低学年の部で優勝した照井(左)と3位中西(右)

(5) リーグを突破した。中西が準決勝で小野柳心館の宮本菜々美にドウで敗れたものの3位入賞。照井は、決勝戦でその宮本と対戦し、メン



木刀による基本技稽古法の審査に挑む受審者たち

三木高(38年ぶり)3位入賞

—東播高校春季剣道大会—

4・26~27 於加古川東高

平成26年度、東播高等学校春季剣道大会兼県総体東播地区予選大会は、連休前の4月26日(土)・27日(日)の2日間、県立加古川東高校で行われ、春の合同合宿を含む稽古で鍛えられた三木市内各高校の剣道部も揃って出場した。

山口優輝(小野高) 3位入賞

26日は男子個人戦と、女子団体戦が行われた。

男子の個人戦では、ベスト16が県大会出場権を得る。三木高校、三木北高校の各3人が出場した。三木高校の松下勇輝が4回戦進出(ベスト16)、三木北高も萩野は3回戦で涙をのんだが、内村、東も揃って4回戦進出を果たし、6名中3名が県大会に出られることになった。小野高校の山口優輝は前評判通り順当に勝ち上がり、3位に入賞した。

女子団体は、三木北・三木東・吉川が出場した。元々選手層が薄く、いずれの学校も初心者が大半、それに比して東播地区の女子はレベルが高いので苦戦は免れない。三木北は、明石清水、明石南、加古川南に全敗したし、吉川も明石西、明石城西に全く歯が立たなかった。僅かに杉正輝する三木東が、加古川東に0-2で敗退したものの、小野には3-2で競り勝ち、リーグ2位を確保した。

東播個人優勝杉正香葉 (三木東)女王の貫禄、小渊恵里香も3位入賞

翌27日(日)は女子個人戦と男子の団体戦。

女子は団体戦不振で迎えたこの日、三木北、三木東、吉川各校が出場。他の選手がいずれも緒戦で敗退する中、三木東高キャプテンで県新人戦ベスト8の実力者杉正香葉が、明石・加古川・高砂などの有力選手を次々に下し、ついに頂点に立った。ずいぶん前の先輩、坂口智美君(当時1年生の部で優勝)以来の個人優勝である。

さらに吉川出身の小渊恵里香(三高)も3位に入賞した。

一方男子団体は、三木高・三木北高のみエントリーした。

個人戦では健闘した三木北だったが加古川東、小野両校相手に力を発揮できないまま敗退した。

三木高校は、加古川西に3-0、西脇に3-0、東播工業に3-2と、リーグ1位で決勝トーナメントに進出した。決勝トーナメント戦では、お互いに手の内を知り尽くした相手(春の合宿でも一緒だった)、強敵社高と対戦、3-1で競り勝ち、準決勝戦では第一シード明石と決勝、1-4で敗れたものの3位入賞が確定し、ずいぶん久しぶりに賞状を持ち帰った。

三木高校剣道部顧問武中敏彦先生のコメント。「今回の大会は2日間を通して小野高、小野工業高、

社高、西脇高など北播備地区の学校、生徒の活躍が目につきました。このことが将来、北播備地区の剣道の発展にもつながっていくことを願います。

次の県大会は、5月31日に男子個人戦、6月7日に女子団体戦、6月8日に男子団体戦が県立武道館で行われます。応援宜しくお願いします。」(報告 高橋洋三)

高橋会長が代表で挨拶 ひょうご生涯スポーツ大会

5月31日、関西マスターズスポーツフェスティバル2014(県教委主催)の開幕にあたり、第9回ひょうご生涯スポーツ大会総会開会式が県立三木総合防災公園ブルボンビーンズドームで開催され、県下各地41加盟競技団体から約500名が参加。兵庫県剣道連盟を代表して三木市剣道連盟会員ら20名が参加した。

開会式は1時から始まり、大会会長の高井芳朗兵庫県教育長の挨拶の後、参加者を代表して当連盟高橋洋三会長が開会宣言を堂々と読み上げた。その後、テニスと卓球を組み合わせたフリーテニスのデモンストレーションや、フィットネス体操などが参加者対象に行われた。大会は来年3月末まで4大会が開催され、剣道は5月18日にねんりん剣道大会、6月22日に地区別剣道交流大会が開催される。

(報告 澤田 薫)